

北茨城民報

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団ニュース

震災後の復興を考える

NPO主催で意見交換会

11月8日、「震災後のリデザインを考える」意見交換会が開催されました。市内外から会場いっぱい参加者。米国、スリーマイル島の原発事故にもくわしい専門家などを迎え、市幹部と意見交換をおこないました。

主催したのは、NPO法人の「ハグジャパン」。デザイナーの中川聡東大特認教授が議論をリードし、ボランティアに行った先で、子どもたちの絵と笑顔に励まされた体験を報告しました。みずから情報を求め、コミュニケーションを深めることの大切さが改めて浮き彫りになりました。

豊田稔市長からは、環



サンマの煙

今年も元気に「雨情の里港まつり」11月6日、大津漁港

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

境中の放射線量について「本市が定めた毎時0・19μシーベルト以下という基準は正しかったのか」と質問も出されました。米国の原子力規制委員を務めるアンソニー氏は「おおむね妥当ではないか。ただし、すべての情報が明らかにされているのか」という疑問があり、事故現場も完全に安定状態になっていないわけではない」と

と今後への懸念についても含みを残しました。また会場から発言した鈴木重敏市議は「放射性廃棄物の問題が解決されていないことを知った。原子力発電は踏み込んでほしくない技術だったのではないか」という思いを語っていました。

福島県議選が告示

福島県議選が11月10日に告示されました。未曾有の大災害で延期されていたもので、多くの住民が他県などに避難しているなかでの異例の選挙です。原発の今後のあり方を問う上でも、全国的に注目されています。

いわき市植田町の事務所前で第一声に立った宮川えみ子県議は、みずから紹介議員となった「福島県内のすべての原発を

廃炉にする請願」が9月の県議会で全会一致で採択されたことについてふり、「採択されたことはうれしいが、じつは前日、自民党などが反対し、所管委員会では不採択とされた。ところが、同党幹部が「これでは県議選がたかえない」と一喝。急きよ本会議で賛成にまわって採択となった。ころころと一日で態度を変えて

しまう党では、いつまた反対にまわるかわからない。一貫して廃炉を求める党を伸ばし、福島から日本の政治を変える発信をしよう」と訴えました。日本共産党は公認6名、推薦1名を立てて、交渉党派となる5議席以上の獲得をめざします。隣のいわき市では宮川えみ子(現)、長谷部あつし(元)両候補の必勝を期しています。投票は11月20日。北茨城市の党市議団も「福島県内の知人への支持を広げてほしい」と呼びかけています。



市民ふれあいセンター、11/8



許さないノダ!

「TPP反対」で埋め尽くされ、11月10日の国会周辺は終日騒然。(撮影・鈴木孝夫)